

--

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四十一点)

この部分は  
著作権の関係で掲載できません



受験番号

□ 次の文章は浅田次郎の小説「卒業写真」の一節である。これを読んで、後の問いに答えなさい。(三十九点)

この部分は  
著作権の関係で掲載できません

受験番号

問一 — 線部 「分不相応」「おどけて」の意味として正しいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

- ア・主義や思想に反していること
- イ・周りと比べて目立っていること
- ウ・心から納得できないこと
- エ・地位や能力にふさわしくないこと
- ア・ふざけて
- イ・驚いて
- ウ・からかって
- エ・笑って

問二 ( a )、( b ) を補うのに最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

- a ア・悪いな、これで終わりだから
- イ・服装、ちゃんと決まってるかな
- ウ・お前らより、カッコよく写るからな
- エ・絶対に、いい写真になるはずだから
- b ア・写真家は、シャッターチャンスを見逃さない
- イ・人間は、それぞれに違った人生を歩まなくちゃいけない
- ウ・人間は、一瞬をないがしろにしちゃいけない
- エ・写真家は、静止の中に動きを見出さなくちゃいけない

問三 — 線部 「ああ、そうそう、あとひとつ。ずっと写真を撮っていると口が曲がっちゃう」と「祖父」が付け加えた意図を説明せよ。

問四 — 線部 「こっそり父が撮り直したプリントだった」とあるが、「父」がこのようにしたのはなぜか。二十字以内で説明せよ。

問五 — 線部 「まっすぐにレンズを見ることができなかった」とあるが、そのときの「僕」の気持ちを、三十字以内で説明せよ。

問六 — 線部 「それが、どのくらい幸福なことか、そのとき初めて知った」とあるが、「僕」がそのように考えるのはなぜか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・その記録を見れば、いつでも過去の自分の姿を振り返り反省することができるから。
- イ・その記録こそが、周囲の人に自慢できる祖父の仕事の集大成だと思われるから。
- ウ・その記録は、自分が祖父のような写真家になることを志すきっかけとなったものだから。
- エ・その記録の一枚一枚が、祖父の教えとともに撮られた大切なものだ気がついたから。

問七 — 線部 「何の注文もつけずにいきなりシャッターを切った」とあるがそれはなぜか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・友人を待たせていることを気にする僕に気づき、すぐに終わらせてやろうと思ったから。
- イ・フアインダーに映る僕の成長した姿に満足し、何も言うことはないと感じたから。
- ウ・普段から撮り慣れている僕が、一瞬だけ見せた最高の表情を見逃したくなかったから。
- エ・僕と過ごした時間を思い出し目頭が熱くなったことを、誰にも知られなくなかったから。

問八 — 線部 「とうとう僕の心の中までを撮り終えてしまったのだ」とはどういうことか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・これから先に僕が考えることまでも予想するようになったこと。
- イ・自分でも気づかない僕の祖父に対する本当の気持ちを見抜いたこと。
- ウ・たくさんのことを教え込んで僕の心を操るようになったこと。
- エ・これまでの教えを僕がきちんと理解していることがわかったこと。

問九 本文の特徴として正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア・様々な比喻表現を用いることで、祖父と僕の互いに対する思いが詳細に表現されている。
- イ・会話の中に方言を多用することによって、こっけいな祖父の様子が生き生きと表されている。
- ウ・孫である僕の目を通して、尊敬する年老いた祖父の姿が愛情をもって描き出されている。
- エ・過去の回想場面を差しさむことで、幸せだった昔を懐かしむ僕の気持ちが強調されている。

受験番号

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(二十点)

平城京 唐からの渡来人

家にて仏教を信仰する人で、けちで利益を第一にし

財産もあつた人が

南都に、齒取る唐人ありき。ある在家人の、貪にして利養を先とし、事に触れて、商ひ心のみありて徳もありけるが、虫の食ひたる齒

を取らせむとて、唐人がもとに行きぬ。齒一つ取るには錢三文に定めたるを、「一文にて取りてたべ」と言ふ。少分の事なれば、ただも取

決して

まったく

るべけれども、心ざまの憎むに、「ふつと」一文にては取らじ」と言ふ。やや久しく論する程に、おほかた取らざりければ、「さらば

( A ) ( 文にて、齒 ) B ( つ取りたまへ」とて、虫も食はぬによき齒を取り添へて、二つ取らせて三文取らせつ。心には利分と

そ思ひけども、きずなき齒を失ひぬる、大きな損なり。これは申すに及ばず、大きに愚かなること、をこがましきわざなり。しかれ

行いに応じて結果が出るという筋道

来世での大切なもの

ば、世間の人の利養の心深き、事に触れて利分を思ふ程に、因果の道理も知らず、ただ眼前の幻の利にふけりて、身の後の菩提の財宝を失ひ、仏法の利を得ざることのみ多けれ。

問一 線部 「虫の食ひたる齒」と反対の意味を表す語句を文中から五字以内で二つ抜き出せ。

Two empty boxes for question 1.

問二 線部 a、dの主語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

Table with 4 columns labeled a, b, c, d.

ア・唐人 イ・在家人 ウ・虫 エ・世間の人 オ・作者

問三 線部 「心ざまの憎さ」は、誰のどついう考え方をいつのか。具体的に説明せよ。

Large empty box for question 3.

問四 線部 「久しく論ずる」の意味を答えよ。

Empty box for question 4.

問五 空欄 A・Bには、数字が入る。文中から最も適当な数字を見つけ出し、それぞれ答えよ。

Table with 2 columns labeled A, B.

問六 線部 「をこがましきわざ」の意味を次の中から選び、記号で答えよ。

Table with 3 columns labeled ア, イ, ウ, エ, オ.

問七 本文の内容から二段に分けたい。後段の初めの五字を答えよ。ただし、句読点も字数に数えることとする。

Empty box for question 7.

問八 本文の内容として正しくないものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア・南都の唐人は、もともと虫齒一本を抜く代金を錢三文と決めていたが、場合によっては代金を差し引く考えもあった。
イ・南都の唐人は、在家人の傍若無人な言動に腹をすえかねて、いくら錢を出されても虫齒を抜こうとはしなかった。
ウ・在家人が自分の利益を得ることに目がくらんで、健康な齒まで抜いてしまったことは、大損で愚かなことである。
エ・世の中の多くの人は、目の前のはかない利益に夢中になって、来世のことをよく考えないから仏のご利益を手にしないのだ。

問九 本文の出典「沙石集」は、鎌倉時代に書かれた仏教説話集である。次の中から鎌倉時代以外に書かれた作品を一つ選び、記号で答えよ。

- ア・徒然草 イ・方丈記 ウ・枕草子 エ・平家物語

Empty box for question 9.